

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100251		
法人名	株式会社ふれあい介護センター		
事業所名	グループホームふれあい楚辺		
所在地	沖縄県那覇市楚辺2-20-2		
自己評価作成日	令和4年 11月25日	評価結果市町村受理日	令和5年 5月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pccpub/top/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和4年 12月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的でぬくもりある環境を作ります」という事業所理念を掲げ、民家を改築し家庭的な雰囲気を残し、中庭から日差しを取り入れることで、その日の天気や四季を感じて頂けるような環境作り心がけています。それぞれがこれまで営んできた生活を大切に、職員のペースを押し付けず、ご本人の意向を大切に「職員自ら受けたいと思うケア」を常に念頭におきながら、個々の要望に添った支援が出来るよう、日々のケアに取り組んでいます。又、職員は認知症への理解と知識が大切であると考え、法人研修、外部研修、沖縄県認知症グループホーム協会主催の研修への参加、そして那覇地区で認知症の勉強会を立ち上げ、他職種との連携にも努め、認知症の正しい知識を持った職員育成に力を入れています。認知症介護には地域の方の力も重要と考え「認知症サポーター養成講座」を行い、地域で支えられるような取り組みも行っています。那覇市ボランティアポイント制度を活用し、地域の方と入居者とのゆたたくや家事、と通して互いに語り合い開かれた事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「個性を大事に」、「生きがい作り」、「家庭的なぬくもり」、「地域と共に支え合い」等のフレーズで作成された3項目の理念を実践に繋げ、日々の支援が行われている。具体的には、利用者ができる役割への支援として、三食事業所内で職員が調理する中、利用者は皮むきや食事の盛り付け、下膳等に参加し、うどん作りで足踏みをしたりし、利用者の意向も献立に反映している。利用者本人に合わせた起床及び朝食時間等、我が家で過ごすような支援が継続されている。入浴は同性介助を基本として支援し、利用者の希望で午前、午後、夜間、日曜日も含めて対応し、ほぼ毎日入る利用者もいる。重度化における事業所対応できるケアについて、職員間で話し合い取り進む方針を確認している。利用者の状態変化に応じて家族や医師、看護師等と話し合い、事業所で看取りを実施している。家族から、「コロナ禍での事業所内での看取りを選択して、最期に寄り添うことができた。」と感謝の声がある。定期的に法人主催の研修や事業所内勉強会が行われ、より良い利用者支援を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入口の1番見えやすい位置に掲示している。又、年間の勉強会の中に組み込むことで職員間での共有を図っている。	理念の共有と実践については、「個性を大事に」、「生きがい作り」、「家庭的なぬくもり」、「地域と共に支え合い」等のフレーズで作成された理念のもと、日々の支援が行われている。具体的には、利用者ができる役割への支援、本人に合わせた起床及び朝食時間等、我が家で過ごすような支援、地域のボランティアを受け入れ、中庭の草刈りをしてもらう等、3項目の理念を実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しているが、外部の方と入居者様の交流は自粛している。那覇市ボランティアポイント制度に登録しており、現在2名が登録。1名は庭の清掃ボランティアとして事業所へ来てくださっている。地域との繋がりを断たないよう制限のある中ではあるが、交流を行っている。	事業所と地域とのつきあいについては、開所当初から地域との交流を目的に、「グループホーム ふれあい楚辺便り」を100部発行し、地域に配布している。コロナ禍で法人の方針により、外部の人との交流は自粛しているが、2か月に1回、那覇市に登録されている草刈りボランティアを受け入れ、利用者との接触を避けながら中庭の草刈りをしてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターで行われている日常地域ケア会議への参加等地域の方向けに配布している新聞を通じて電話等を頂いた方の相談にお答えしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により今年度の運営推進会議より、参加者の人数を最小限にしや市役所職員、包括職員、知見者のみでの開催を行っている。地域の方やご家族様には事前に資料を配布しご意見等を頂いている。	運営推進会議を活かした取り組みについては、コロナ禍のため法人方針により、職員のみで2か月に1回、定期的に開催している。6回中1回は、行政と地域包括支援センター職員が参加している。会議録も作成され、質問票と一緒に資料配布を関係者に行っているが、委員からのアドバイスやコメント等の回答は届いていない。運営推進会議を活用した取り組みに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	那覇市グループホーム連絡会や運営推進会議等を通じて取り組み等の報告や書面などで質問を伝えている。	市町村との連携については、市担当窓口に出向き、事業所内で行われた運営推進会議録を提出しながら情報を得ている。グループホーム協会の研修案内や県や市からの研修等の情報を得て参加している。コロナ禍でZOOM研修が主体となっており、認知症研修等、スマホやタブレットを利用し、職員が参加しやすい工夫している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自事業所の勉強会カリキュラムに組み込んでおり、職員に理解や共有を図り拘束等が必要ないようその都度話し合いを持ち、拘束をしないケアが行えるよう取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践については、身体拘束等の適正化のための指針を見直し、身体拘束排除マニュアルも作成している。法人内のグループホームやデイサービス等、5か所の事業所職員で身体拘束等の適正化のための対策検討委員会を定期的開催し、会議録も作成している。身体拘束と虐待については、年間研修計画に位置づけられ、年2回定期的に研修が行われている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	沖縄県グループホーム協会に加盟しており、主催の研修に参加している。また、定期的に社内研修で虐待防止について学ぶ機会を持ち、意識づけを行ない日々のケアについて適宜話し合いを行ない自身のケアについて振り返りを行って自身だけではなく他職員のケアに対しても興味を持つよう意識づけを行っている。	虐待の防止の徹底については、那覇市作成の高齢者虐待防止マニュアルを使用し、身体拘束とともに虐待についても年間研修計画に位置づけられ、研修も実施されている。職員は、言葉遣いを意識しつつ、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。呼称の基本は、「〇〇さん」であるが、利用者本人と家族に承諾を得て愛称で呼ぶこともある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	沖縄県グループホーム協会に加盟しており、主催の研修に参加している。また、社内研修にて権利擁護について学ぶ機会を設けている。後見人制度を利用されている利用者様については後見人と定期的に連絡を取り合い連携を図っている。又、後見人制度の職員への周知を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、ご家族様に分かりやすい説明や言葉選びを行ない十分にご理解が得られるよう努めている。又、気になることや心配事などいつでもご連絡頂けるよう伝えている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来所の際やお電話やSNSを活用し日々の様子を伝え要望等を言いやすい環境づくりに努めている。年に一度、ご家族へアンケート調査を行っており、頂いた意見はミーティングで職員と共有し、改善に努めている。又、ミーティングに入居者様、御参加いただき意見等を言える機会づくりを行っている。	運営に関する利用者、家族等意見の反映については、行事を決める話し合いに利用者も参加している。おやつ作り等の希望を聞いて、10時のコーヒーや15時にピザ等を提供している。誕生日プレゼントも本人へ聞き、靴下やスリッパ等を購入している。駐車場の猫の糞や玄関の落ち葉で転びそうになった等、家族からの意見があり、毎週掃除を行うこととなっている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや個別での面談で職員とのコミュニケーションを図る機会を設けており、意見を吸い上げる環境作りに努めている。	運営に関する職員意見の反映については、ミーティング等で職員の意見を受け、利用者支援を行っている。具体的には、遅出勤務者は30分残業し利用者支援を行っているが、職員から利用者も落ち着いている等の意見があり、通常時間に戻し試験的に実施している。また、フロアへの入日の緩和のため、中庭にグワバやバナナ等の果物を植える等、工夫している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員雇用制度やワークライフバランスを取り入れており、職員の資格取得の手助けや勤務形態の相談に応じ個々の能力が遺憾無く発揮できるような業務づくりを行っている。また、年に2回の人事評価を行い、評価によって昇給も行われている。その他に年齢給や勤続給で年に1度はすべての職員が昇給する仕組みがある。	就業環境の整備については、法人で就業規則を整備し、健康診断や勤務体制、産休や育休等が記載されている。事業所においては、休憩時間や場所、夜勤や日勤等職員の状況に応じ配慮している。ハラスメント防止に関しては、年2回定期的に研修が行われている。就業規則の記載内容の見直しはこれからとしており、マニュアルは平成31年3月の「介護職員におけるハラスメント対策マニュアル」になっており、マニュアルとしては不十分である。	今年度より、職場におけるハラスメントの防止が義務化されたため、ハラスメントの防止指針の整備が望まれる。さらに、就業規則についてハラスメントの種類追加や懲罰の検討、及びマニュアルの見直しも望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、OOFJT等で職員の知識や技術の向上を目的とした機会を提供している。又、法人内で講師の登録制度を設け勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市のグループホーム連絡会への職員の参加で交流を図っている。又、事業所の見学の受け入れも行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様からの意見に真摯に耳を傾け、安心していただけるサービスの提供を目指した関係づくりを心掛けている。又、終の棲家になれるよう職員と心の通った間柄になれるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との連絡を蜜に行いちょっとした事でも気軽に相談できる関係性の構築に努め、日頃の情報提供からお薬の調整や健康面での不安など意見を相互に話し合える時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様への聞き取りや希望の確認を行いイメージを持ってサービスが利用できるよう情報提供をし、選択を狭めないように支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や皿洗い、掃除等の家事に関わらずご本人様が出来る範囲で役割を持っていただき共同生活の中で協力し合う関係性の構築ができるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にもチームの一員としてご本人のケアや外出、施設行事等に積極的に関わっていただき家族の時間を作れるよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響で面会や外出の制限を行っているが、ご家族様やご友人等とのふれあいが継続できるよう居室での面会やSNSを活用したりリモート面会を行っている。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、コロナ禍の中、玄関前での面会を行い、感染対策を図りながら、6、7年通っている美容室へ出かけている利用者もいる。県外に住んでいる娘の友人が訪ねて来たり、自治会の方から菓子の差し入れがある等の交流も継続されている。ドライブがてら利用者の自宅付近へ出かけることで、関係が途切れないよう配慮している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、又は職員が間に入り共同生活の場としての環境づくりに努めている。又、レクや行事等で共通の話題の提供を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の悪化やその他の理由により退所してしまつた方へ事業所での生活の様子や相談等へは必要に応じ情報提供を行っている。又、その際には管理者だけでなく職員とのコミュニケーションも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の生活ペース似合わせご希望の時間での入浴や食事の提供、支援を行い、個々の希望に沿ったサポートができ、自宅にいる時のような安心感が持てるよう努めている。	思いや意向の把握については、アセスメントに好きな猫の世話をしたい等、本人の意向が記載されている。日常的には、一緒にテレビを見たり、新聞のチラシを見ながらさりげなく本人の希望や意向を聞くようにしている。職員の言葉かけに、利用者からドーナツやケーキ、寿司等の食べ物や好きな猫の写真等の希望があり、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様はもちろん、面会時にご家族様、ご友人等に生活歴の聞き取りを行い暮らしやすい環境を提供できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日誌、カンファレンス等で日々の生活リズムの把握に努めその都度必要なケアについて検討しご提供出来るよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室の担当職員を設け定期的なモニタリングやカンファレンスで現状に即した支援が行えるようなプラン作りや担当者会議においても各関係者に加え可能な場合はご本人様やご家族様にも参加いただき介護計画に反映している。	チームでつくる介護計画とモニタリングについては、長期目標は1年、短期目標を3か月とし、3か月毎にモニタリングを行い記録されている。担当者を中心に、本人の意向を聞き取り、誕生日プレゼントの購入や居室の片付け等を行っている。家族面会時に介護計画更新等の会議を行ったり、管理者や計画作成担当者が家族の意向を確認し計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録だけではなく、ICTを活用した医療との連携、情報の共有を行いご本人様の状態に即した支援が提供できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の対応や図書館への外出、ご自宅への宿泊等ご本人様、ご家族様から相談が合った際には、ご希望に添えるように支援を行っているがコロナの影響で実施出来ていないことも多々ある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市のボランティア制度を活用し歌会や傾聴ボランティアの受け入れを行っており、ボランティアの方々との交流を通じた新たな馴染みのある関係性の構築ができるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に添った医療機関への受診への職員の付き添い支援や提携している医療機関へのICTを活用した情報の共有を図り安心した生活が営めるよう支援している。	馴染みのかかりつけ医を継続している利用者が3名で、受診は家族対応を基本としているが、家族の要望や必要時には職員も同行している。希望する協力医に変更している方は6名で、その内3名が訪問診療を利用している。全利用者が訪問看護を利用している。受診時の情報交換や受診結果の共有については、情報提供書やICTを活用し、医療連携の充実を図っている。訪問歯科は3名が利用している。全利用者が健康診断を受け、希望する方はインフルエンザの接種も受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態の変化について看護師との情報の共有を行い医療が必要な際には医師への情報提供を依頼している。又、必要に応じてご家族様への説明も依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院の際には過去の病歴や最近の状態等の情報提供を行い適宜こちらから連絡し現状の把握や治療の内容について情報の共有を図っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様へは入居の際、事業所で可能な支援について情報提供を行っている。又、状態に変化があった際はその都度、ご家族様と看取りの継続を含め話し合いの場を設け、本人にとってより良い生活が送れるよう努めている。	重度化や終末期の支援については、契約時に指針や事業所で対応できるケアについて説明し、同意書ももらっている。状態変化に応じて家族や医師、看護師等と話し合い、家族の意向を再度確認して対応方針の共有に努めている。職員は3月の法人内勉強会で「看取り時に必要な知識」について学び、4月には看取りを実施している。その後職員間で反省点や不安点、課題等を話し合い、今後も取り組む方針を確認している。家族から、「コロナ禍での事業所内での看取りを選択して、最期に寄り添うことができた。」と感謝の声がある。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の研修にて消防所協力の元救急法の実践を行っている。又、看護師へ緊急時の対応について学んでいる。	異常事態や事故発生時の対応について、マニュアル類や緊急時連絡網等を整備している。職員は日頃から応急手当の仕方を学び、AEDの使用方法や心臓マッサージの方法も動画で学習する等、理解を深め、訓練後にAEDの設置を検討している。事故等については、事故報告書に発生した状況図も書き入れ、職員が共有しやすいようし、運営推進会議資料にも状況や原因、対策等を整理してまとめ、丁寧に報告している。損害賠償保険に加入している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	日中、夜間と年2回シチュエーションを変えることで職員配置に関わらず避難が行えるよう実施している。又その際には反省点や改善点を含め話し合いを行って。感染対策についても那覇市、保健所、県からの情報をその都度、職員へ周知図っている。	昼夜想定避難訓練を年に2回実施している。利用者も参加して実施後の反省会を開き、一時避難場所が遠いことや近隣住民の協力の必要性を確認している。設備点検も定期的実施し、指摘事項に対処している。防災の各種対策マニュアルを整備し、利用者や職員の3日分の食料や水等を備え、備蓄リストを作成して点検や補充を行っている。ゴミ袋やサララップ、カセットコンロ等も備えている。災害発生時や感染症発生時の業務継続計画は取り組み中である。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の性格、心身の状態に合わせた声かけや入浴やトイレ介助の際には同性介助を基本とした配慮を行い尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。	職員は、利用者に対し1人の人間として敬意をはらい、理念の「一人ひとりの個性を大事にする」ことを意識して支援している。1日の日程を決めず、食事や入浴等利用者の生活リズムや希望を尊重している。利用者の情報に関する連絡等は、プライバシーに配慮して行っている。馴れ合いにならないように言葉遣いに注意しながらも、本人が希望する場合は愛称で呼びかける等、利用者とのコミュニケーションの取り方を工夫している。個人情報保護方針や利用目的を整備し、同意書を得ている。方針等は玄関やHPで公表している。誕生日のプレゼントは本人に欲しいものを聞いて贈っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな音楽や映画、希望の外出等気兼ねなく伝えられるような環境づくりに配慮し、日程調整やもしも希望されたことの実現が困難な場合は代案等伝えご希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活スタイルを把握し食事や入浴の時間を決めず、ご本人の希望に添った支援が随時提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際にはご本人にコーディネートを選んで頂いたり、希望があった際には美容室や服屋へ外出支援を行い今まで通りのオシャレが出来るよう努めている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考える際、希望を聞いてメニューに取り入れたり、新聞や雑誌、パソコンのの写真から食べたいと話されたものを職員と一緒に買い出しへ行ったり作ったりしている。	食事については、食材や献立は業者を利用しているが、三食事業所内で職員が調理している。利用者は皮むきや食事の盛り付け、下膳等に参加し、うどん作りで足踏みをしたり、恵方巻き作りもしている。利用者から食べたいものを聞いて献立を変更し、焼肉やカレー、クープイリチー等も提供している。マシュマロ会や手作り握り寿司大会、13周年記念のBBQ大会、ムーチー作り等を実施して食事が楽しめるよう工夫している。職員は同じ食事を食べているが、法人の方針でコロナ禍は一緒には摂っていない。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の体重管理や状態把握から食事の形態や量、バランスを考え、食事や水分量が少ない時には好きな物や食べやすさに配慮しご本人様の無理のない範囲で摂取して頂けるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様に合わせ口腔ケアシートやマウスウォッシュなどを活用し入れ歯の方は夜間帯は事業所でお預かりし消毒する事で口腔内の衛生が保たれるよう努めている。又、必要に応じて歯科受診、往診の促しも行っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを記録等から収集、把握を行い、日中は布下着を活用したり適宜の誘導で失敗を減らせるよう努めている。又、トイレまでの距離が間に合わない方へはポータブルトイレを活用を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中は7名の利用者のトイレ排泄を支援している。布パンツの使用、夜間時のポータブルトイレの使用により、失敗が減らせるよう努めている。排泄支援時はドアやカーテンを閉め、プライバシーに配慮し、使用時に自らドアを開める利用者もいる。職員は「オムツの使用法」の勉強会で、オムツの当て方を再確認し、共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の際に乳製品を提供したり、日頃から食事のメニューに食物繊維の多い食品を取り入れ便秘予防に努めている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご家族様から希望やご本人の体力を考慮した入浴を提供し、夜間帯でも入浴を希望される方にはご希望に添えるような環境作りに努めている。	入浴は、週に3~5回とし、利用者の希望で午前、午後、夜間、日曜日も含めて対応している。ほぼ毎日入る利用者もいる。同性介助を基本として支援し、自立している方はさりげなく見守る等配慮している。入浴中は民謡を流したり、入浴後のドライヤーは食堂で行う等している。段ボールで足湯用の桶を作成し、庭に面した縁側で足湯会を実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	ご本人の生活スタイルに合わせた 就寝介助や傾眠見られる方には ソファーや居室で休んで頂ける よう配慮している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	医師や訪問薬剤師とICTを活用 した連携を取っており、状態変 化や服薬について随時連絡を図 っており服薬に関する研修を年 間のカリキュラムに取り入れたり 薬剤師の訪問時に質問したりし ている。	利用者は、2週間に1回の訪問 薬剤師を利用している。職員は、 利用者の個別の処方箋ファイル をもとに利用者一人ひとりの服 薬について理解し、医師や薬剤 師と連携して、服薬状況を共有 し、薬の追加や変更についても 特記事項の記録で確認している。 「服薬管理マニュアル」や「服薬 手順書」に沿って支援し、誤薬 発生後は再発防止の検討会議を 開き、対策を検討して職員で共 有し、その後誤薬は発生してい ない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	入居者様の好きな音楽や映画の 鑑賞で気分転換を図ったり、役 割を持った生活が出来るよう家 事やおやつ作りに参加して頂き ご本人の能力に合わせた活動が 出来るよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける られるように支援している	季節に合わせた外出行事やご本 人様が希望された際は個別での 外出支援、日常的な買い出しへ の同行を行っている。又、ご家 族様の協力で週末ご自宅へ帰 宅し過ごせるよう支援している が最近では新型コロナウイルス の影響で短時間のドライブや密 にならないような場所での外出 を行っている。	利用者は、日頃から庭にあるフ ーチパーやアセローラの実を収 穫したり、花を摘んで部屋に飾 る等、敷地内を散歩している。 2階にはベランダや洗濯物干し 場があり、自由に出入りができ るようになっている。コロナ禍 でも可能な外出支援を工夫して 短時間のドライブを実施し、密 にならないような場所へ出かけ 、気分転換を図っている。重度 の方も車イスで外気浴をしてい る。入居後に通うようになった 近くの美容室で髪をカットする 利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している	ご本人様での管理が難し方は事 業所や社協の金銭管理事業や後 見人が管理しご希望時には一 緒に買い物へ出掛け今まで通 りの生活が出来るよう努めてい る。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話仕様のご希望があった際にはいつでも掛けられる環境作りを心掛けている。又ご自身では難しい方には定期的に職員が様子をご家族様へお伝えしたり手紙や年賀状を送っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングやテーブルに季節に合わせ折り紙や飾りを入居者様と飾ったり、お香を焚いて香りを楽しんだり、快適に過ごしていただけるような環境作りに努めている。	住宅街の中の一軒家をリフォームした事業所で、庭に面してL字型に食堂とリビングが各々配置され、家庭的な雰囲気作りをしている。食堂にはテーブルやイス、リビングにはソファやテレビ等が設置され、利用者が思い思いの場所で過ごせるようにしている。庭には灯笼もあり、バナナやアセローラ、グワバ等を植え、いつでも眺めることができ、収穫も楽しめるようにしている。花火大会も庭で実施している。夏場は、食堂側のサッシによしずを立て掛け、入り日や室温を調整している。面会場所となっている玄関には、透明のスクリーンを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が思い思いに過ごして頂けるよう一人掛けや二人掛けソファを配置したり、仲の良い入居者様同士で食事を楽しんで頂けるよう食堂の座席配置を工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様やご友人との思い出の写真や家具などご本人様の愛着のある物を持ってきていただいております。ご自身が過ごしやすく外との繋がりを認識出来る環境作りが出来るよう支援している。	居室には、ベッドやエアコン、クローゼット等を設置し、利用者は各々テーブルや椅子、テレビ、ハンガーラック等を持ち込み、写真や誕生日プレゼント等を飾っている。猫が好きな利用者は、猫の写真も飾っている。各居室には利用者名ではなく、花の名称を掲げている。クリスマスプレゼントとして芳香剤を贈り、利用者の部屋やクローゼットで使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線が確保出来る環境整備や廊下に椅子を配置しいつでも休めるよう工夫したり、ご自身の居室が分からなくなってしまう方は入口に名前を記入した紙を貼り迷わないよう支援している。		